



新入生の安心と学びを育む接続期支援の実践

～スタートカリキュラムと異学年交流を核とした有明台小の取組～

令和7年度
有明台小学校

1 はじめに

近年、不登校児童数の増加は、教育現場における喫緊の課題となっている。その原因は多岐にわたるが、多様な背景や特性をもつ子どもたちが学校生活に適応しづらく、学びへの不安や孤立感、疎外感を抱くことが一因であると考えられる。こうした状況を踏まえると、多様性を認め、包摂（インクルージョン）を目指す学校の在り方、そしてそれを具体的に実現するカリキュラムの重要性は一層高まっている。

小学校入学は、子どもたちにとって大きな環境の変化であり、その後の学校生活を左右する重要な時期である。子どもたちが安心して学校生活を始め、主体的に学びに向かうことができるよう、効果的な接続期の支援は不可欠である。

本稿では、有明台小学校がこの社会的課題を認識し、「ダイバーシティ&インクルージョン」と「カリキュラム・マネジメント」を一体的に推進する中で実施した「スタートカリキュラム」に焦点を当てる。特に、本校の取組の特徴である「ウェルカムプロジェクト」における異学年交流の実践に着目し、新小学1年生の学校適応と安心感の醸成に向けた具体的な方策とその効果について考察する。



2 スタートカリキュラム導入の背景

有明台小学校には、約15の幼稚園・保育園・こども園から子どもたちが入学してくる。園によって教育方針や生活リズムに違いがあり、入学時点での学びや生活のスタイルにも個人差が大きい。こうした多様な背景をもつ子どもたちを、どのようにして一つの学級、一つの学校としてまとめていくかが、教育実践の最初の大きな課題である。

さらに、近年の社会状況の変化によって、保護者の子育て観にも変化が見られる。学校への期待が高まる一方で、不安や心配を抱えて入学してくる家庭も多く、子どもたちの不安を取り除くだけでなく、保護者との信頼関係の構築も重要な要素である。

このような状況を受け、本校では「安心して学校生活をスタートできるカリキュラム」、すなわちスタートカリキュラムの見直しを行った。

3 スタートカリキュラムの基本的な構想と全体像

(1) 目的と理念

スタートカリキュラムは、単なる「導入期の学習」ではなく、子どもが学校という新たな環境に対して「安心感」「楽しさ」「所属感」をもてるようにすることを目的としている。さらに、学級内の人間関係づくりや生活習慣の定着を支援し、個に応じた「学びのスタート」を実現することも重要な柱である。

新潟市教育振興基本計画（こいがた学びのコンパス）基本施策6「誰一人取り残さない一人一人の可能性を引き出す教育の推進」にあるように、「ダイバーシティ&インクルージョン」を教育の中核に据え、特定の子どものみではなく、すべての子どもが自分らしさを発揮し、他者とともに学ぶ環境の整備を目指している。

(2) 「つながり期」の構成

有明台小学校のスタートカリキュラムは、新小学1年生が安心して学校生活を送れるよう、入学からゴールデンウィークまでの「つながり期」（4月第1週～第4週）に集中的な支援を行うものである。この期間の目標は、「安心して学校に来られる」「学校のルールを守り、みんなで遊んだり活動したりできる」ことであり、指導の重点として以下の3点が挙げられる。

- ・環境を知り、学校生活の見通しをもてるようにする
- ・学校のルールを子どもに考えさせながら教える
- ・安心して学校に来られるよう、温かく支援する

4 具体的な取り組みの内容

(1) 日常生活支援の充実

初めての環境に戸惑い、不安を感じやすい1年生にとって、見通しをもてる生活が何よりの安心につながる。そのため、教室内の環境を工夫し、写真や図を使った視覚支援を導入した。



このほか、下駄箱の使い方、給食準備の仕方、机の上の整理整頓などの細かな手順をイラスト付きの掲示物で示し、各所に配置した。さらに「ゆったりルーム」に遊びコーナーを設置し、折り紙・塗り絵・絵本などの活動を通じて、登校後すぐに落ち着いた時間を過ごせるよう配慮した。



・朝の支度見守り隊：1年生が初めての場所で不安を感じないように、雨具掛けやロッカー、引き出しの使い方を愛情をもって優しく教え、自分でできるように励ましながらサポートする。

・一緒に遊び隊：朝の支度終了後、「ゆったりルーム」で1年生と共に穏やかに遊ぶ。特に、友達がいなくて不安な子や、何をしたらよいか分からない子に対して積極的に声をかけ、1年生同士のつながりを促す役割を担う。

このプロジェクトでは、6年生が「最高学年としてのプライドをもち、しっかりとしたお手本を示す」ことが重視されている。言葉遣いや態度に配慮し、トラブルや失敗があっても笑顔で前向きに取り組む姿勢を示すことで、1年生に「有明台小の伝統」として受け継がれることを目指している。

また、6年生によるウェルカムプロジェクトだけでなく、2年生による校歌の歌唱指導や学校探検、アサガオの種プレゼント、3年生による児童会の歌の歌唱指導など、異学年交流を多角的に活用している。



↑「ゆったりルーム」で共に遊ぶ
←玄関での出迎え

活動計画表

6年生「活動計画表」→
↓振り返りの記述



担当 隊 3名	気をつけること・挑戦すること・がんばることなど	評価
	「明るく挨拶する。 の動きをあわせる(目標をあわせる) 」金いんやいなくなる(まう)に、 」ババット(便)でせやく(便)。 元気があつた(どき)で、 楽しい気持ち(道具)を使う。	◎
	「声をかけると本音に!! 。明教(徳)しく(学校) 。同じ(自分)の(人)で(個性) 」(学校)で(個性)を(個性)する。	◎

(2) ウェルカムプロジェクトを核とした異学年交流

有明台小学校のスタートカリキュラムにおける最も特徴的な実践の一つが、6年生全員が主体的に関わる「ウェルカムプロジェクト」である。これは「有明台小へようこそ!」の精神のもと、6年生が1年生の朝の支度を見守り、一緒に遊びながら、学校生活を笑顔でサポートするプロジェクトである。最終目標は、1年生が「小学校は楽しそうだ」「安心できる場所だ」と感じられるようになることである。ウェルカムプロジェクトの具体的な活動内容は以下の通りである。

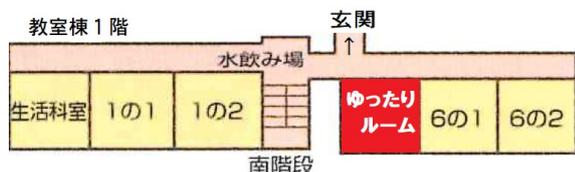
・玄関出迎え隊：1年生を笑顔で迎え、明るい声かけと優しい案内で安心感を与える。下駄箱の使い方も丁寧に教える。

「ウェルカムプロジェクト」6年生の振り返り

始めは心配でしたが、1年生が楽しそうでした。この取組を通して、6年生も協力し合い高め合えました。また、1年生が自分から声をかけて仲良くなっていく姿を見て、私も見習いたいと思いました。学年の壁を越えて全校が仲良くなれるこの取組は、今後も続いてほしい有明台小の伝統になると思います。

教室の配置について

ウェルカムプロジェクトをはじめ、1年生と6年生の交流が深まることをねらい、両学年を同じ階（1階）に配置した。さらに、間に「ゆったりルーム」を設置し、共に遊んだり交流したりできる場を確保した。



(3) 教員の組織的支援体制

年度当初、担任だけで1年生のすべてを支えるのは困難である。本校では、管理職、教務主任、養護教諭、栄養教諭、図書館司書といった級外職員がチームを組み、スタートカリキュラムを支える体制を整えている。

連絡帳や提出物の確認は教頭と教務主任が、下校支援は管理職と教務主任が、食物アレルギー対応は養護教諭と栄養教諭が、学級文庫の整備は図書館司書が担任を支えている。また、園からの引継ぎ情報をもとに、チームで「気になる子」について情報を共有し、支援につなげる体制も構築している。

実際、登校初日に不安で表情が曇っていた子どもが2、3人いたが、即日の支援により、2日目以降には表情が穏やかになり、活動に前向きに参加する姿が見られるようになった。



教頭・教務主任が教室で連絡帳を確認

(4) 地域・保護者との連携

つながり期から地域や保護者が子どもたちを見守る体制の構築も意識している。給食配膳の補助や下校時の見守りにボランティアを配置することで、子どもたちは「自分は地域に大切にされている」という実感をもつことができている。



地域ボランティアによる下校時の見守り

5 考察と成果

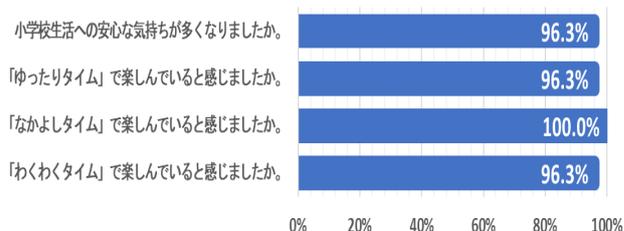
有明台小学校のスタートカリキュラムの見直しとウェルカムプロジェクトは、新小学1年生の学校適応において顕著な成果を上げており、その取組は、不登校

問題の一因とされる「学びにくさや不安等から抱く孤立感や疎外感」の解消に有効であると考えられる。本実践は、「多様化する子どもたちを前提として、いかにダイバーシティ（多様性）を認め、インクルージョン（包摂）を目指していくのか」という現代の教育課題に対する具現化の一例である。

まず、視覚支援と遊びの場の提供は、子どもたちが自律的に学校生活を送るための基盤を築くものである。特に、朝の支度の手順や物の置き場所を視覚的に示すことで、言語的な指示だけでなく視覚的な情報からも子ども自身が見通しをもって行動できるようになる。遊びの場の提供は、子どもたちが学校を「楽しい場所」と認識し、精神的な安心感を育む上で不可欠である。

次に、ウェルカムプロジェクトにおける異学年交流は、新小学1年生の不安軽減に非常に効果的である。最高学年である6年生が温かく、かつ具体的な行動でサポートすることで、1年生は「困ったときに助けてくれる人がいる」という安心感を抱き、学校への信頼感を高める。また、6年生にとっても、下級生を思いやる気持ちやリーダーシップ、問題解決能力を育む貴重な機会となり、自己肯定感の向上にもつながっている。これらの多角的な支援がもたらす成果は、学校評価の保護者アンケートからも明確に示されている。

学校評価アンケート（1年生保護者） 令和7年7月



これらの高い肯定的な評価は、子どもたちがスタートカリキュラムを通じて「安心して学校に来られる」「学校は楽しい場所だ」という感覚を育てていることを強く裏付けている。特に、「ゆったりタイム」「なかよしタイム」「わくわくタイム」（別紙資料参照）といった遊びを基盤とした活動が、1年生に受け入れられ、学校生活へのポジティブな感情を育むことに貢献している。

今年度は、年度当初の登校後の取組を市内の教職員の皆様に公開することとした。「新時代のスタートカリキュラムをリアルタイムで公開！～1年生のはじまりを変える30分！“遊び”から広がる学びの世界～」と題し、朝のウェルカムプロジェクトや教員の組織的支

援の様子、第1校時までの流れを参観できるようにした。年度当初ということもあり、学級を空けて出張しにくい時間帯ではあったが、新潟市教育委員会の指導主事を含め、延べ20名以上の先生方が時間を調整して参観して下さった。

参観された先生方の声

「子どもが楽しそうで生き生きしている」「教室で落ち着いて学習できている」「学年を越えた子ども同士のつながりが強い」など、肯定的な声が寄せられた。

有明台小学校のスタートカリキュラムは、「遊び」を通した総合的な学びから、教科の学びへと段階的に移行することを重視している。その過程で、子どもたちは必要な小学校のルールを徐々に習得していく。このアプローチは、子どもたちの発達段階に応じた学びの提供であり、今後、学習意欲の向上にもつながることが期待される。



幼保連携・保育園・こども園長 兼
新潟市立小学校長 兼

新時代のスタートカリキュラムをリアルタイムで公開！
「1年生のはじまりを変える30分！“遊び”から広がる学びの世界」

<有明台小版スタートカリキュラムの特徴>

- その1 つながる教室！6年生が受える1年生の安心と自己発揮
- その2 担任だけじゃない！みんなで見守りじっくり変わる学びの場
- その3 グラデーションを1遊びを通した総合的な学びから教科の学びへ

◎公開期間：時間 4/15(水)～4/22(水)、4/24(木)、5/1(木)
いづかの日は、8～15時～25時

◎参 観 方 法：二次元(バーコード)より必要事項をご入力ください。(公開前日まで受付可)

【参加・問合せ】
新潟市立有明台小学校 教務 佐藤 貴美

スタートカリキュラム公開のフライヤー

6 結論

有明台小学校では、新入生の不安を和らげ、円滑な学校生活のスタートを支えるために、スタートカリキュラムの見直しと、6年生によるウェルカムプロジェクトを核とした異学年交流を実践してきた。その中心にあるのは、「子どもたち一人一人の安心感の醸成」と「多様な支援による環境づくり」である。

視覚支援を活用した環境整備や、異学年交流、地域・保護者との連携による見守り体制の構築は、1年生が新しい生活に前向きに適応し、主体的に学び始めるための土台となっている。また、これらの実践は、保護者アンケートの高い評価からも、その効果が確認されている。

本校のスタートカリキュラムは、不登校児童数の増加といった現代的な教育課題に対して、「ダイバーシティ&インクルージョン」と「カリキュラム・マネジメント」を融合させた実践例として位置づけることができる。今後も、子どもたちの実態を丁寧に捉えながら

取組の質を高め、よりよいスタート支援を継続していく所存である。本実践が、他校における接続期支援の参考となれば幸いである。

1年生担任の見取りと感想(6月上旬)

- ・慎重な子が多い集団ですが、入学式翌日だけ、不安や硬さが見られる子がいた程度で、それ以降は1週間以内に学校生活に適応をしていきました。
- ・ゆったりタイムは、昨年度よりできる遊びの幅を広げたので、それぞれの好みに合ったものを選んで、楽しそうに遊ぶことができました。ゆったりルームだけではなく、遊びに合わせて1年生の教室や廊下などの場所も選択していました。
- ・なかよしタイムでは、手遊びやダンスなど、子どもたちが園でやってきたことを聞き取りながら、みんなでもやってみました。最初はマイナスな声が聞かれましたが、繰り返したり、選ばせたりしていくことで、「もっとやりたい」「次はこれをやってみよう」などプラスな声に変換されていきました。
- ・わくわくタイムは、学校探検が中心でしたが、2年生や4年生の教室に招き入れてもらって、良いモデルを見せてもらうことができました。今年度は、6年生だけではなく、2・3・4年生とも交流ができました。



- ・入学以来、担任以外のたくさんの先生方からも温かく見守っていただいているので、意欲的に先生方の名前を覚え、積極的に関わろうとする姿があります。
- ・学年懇談会で保護者からは、「入学前は心配していたが、思ったよりも楽しそうに学校に通っている」「毎日、学校に行くことを楽しみにしている」など、良い反応が多くありました。現在、登校を渋る様子も見られません。

